

研究活動報告

日本人口学会2008年度・第2回東日本地域部会

日本人口学会の2008年度第2回東日本地域部会が2009年3月20日、東京女子大学生涯学習センター(西生田キャンパス 神奈川県川崎市)にて開催された。「地域人口推計の現状と課題」をテーマとする5つの報告があり、2人の討論者からのコメントを受けて全体での討論が行われた。全体での討論では非常に活発な議論が交わされ、参加者の関心の高さがうかがわれた。参加者は報告者を含めて19人で、西日本からの参加者も目立った。

座長・組織者、討論者、報告タイトル・報告者は下記の通りである。

座長・組織者 阿部隆 (日本女子大学)、西岡八郎 (国立社会保障・人口問題研究所)

討論者 原俊彦 (札幌市立大学)、江崎雄治 (専修大学)

報告タイトル・報告者

- | | |
|----------------------|---------------------------------------|
| 1. 趣旨説明—地域人口推計の役割と課題 | 阿部隆 (日本女子大学)
西岡八郎 (国立社会保障・人口問題研究所) |
| 2. 推計手法の現状と課題 | 小池司朗 (国立社会保障・人口問題研究所) |
| 3. 推計の役割と手法の国際比較 | 菅桂太 (国立社会保障・人口問題研究所) |
| 4. 推計の実例, 推計結果の分析(1) | 山内昌和 (国立社会保障・人口問題研究所) |
| 5. 推計の実例, 推計結果の分析(2) | 山口泰史 (荘銀総合研究所) |

(山内昌和記)

第42回国連人口開発委員会

2009年3月30日(月)から4月3日(金)までニューヨークの国連本部において人口開発委員会(Commission on Population and Development)の第42回会合が開催された。日本からは国立社会保障・人口問題研究所の高橋重郷・副所長が参加し、国連日本政府代表部より宮川昭二参事官が加わった。

今回会合のテーマは「MDGsを含む国際的に合意された目標へのICPD行動計画の貢献」で、昨年の第41回会合の最終日に選出されたメキシコのヘレーナ(Ms. Elena Zúñiga Herrera)議長を始めとする事務局によって議事が進められた。

初日の議事は、事務局が用意した議題案と副議長ならびに事務局構成、本会議決議案文作成のための作業部会の設置などについて提案があり、採択された。

続いて、義務局より「ICPDにおける勧告に対するフォローアップ活動」に関連した報告が行われた。それらは、「MDGsを含む国際的に合意された目標へのICPD行動計画の貢献に焦点を当てた世界人口のモニタリング」、「MDGsを含む国際的に合意された目標へのICPD行動計画の貢献に焦点を当てた人口プログラムのモニタリング」、および「ICPD行動計画の履行を支援するための資金の流れ」の三報告である。これらの報告に対して、各国ならびに各国際機関が発言した。スーダン(G77と中国を代表)は、これらの報告に対して、国際人口開発会議(ICPD)の行動計画がMDGsを